

日本顕微鏡学会会報

2004
No.3

社団法人 日本顕微鏡学会

■2004年11月30日発行

■〒112-0012 東京都文京区大塚 3-11-6

■TEL: 03-5940-7290 ■FAX: 03-5940-7980

大塚三丁目ビル

■E-mail: satomi@r-sipec.jp

サイベック株式会社

■URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsm/index.html>

2004年11月

日本顕微鏡学会会員の皆様

学会事務センターの破綻と新事務局の設置について

日本顕微鏡学会
会長 外村 彰

題記の件につき、皆様にご心配をおかけいたしました。ようやく新しい事務局が発足し事務業務を再開いたしましたので、その経緯と現状を以下のとおりお知らせいたします。

1. 学会事務局に関して

日本顕微鏡学会が事務委託をしておりました財団法人日本学会事務センターは、本年6月末に預かり金の流用問題が表面化、平成16年8月6日、民事再生法の適用を東京地裁に申請したものの、同年8月9日にこれを却下され、8月17日ついに東京地裁より破産宣告されるに至りました。そして、9月8日、本学会の財産や事務的書類・情報等のすべて（通帳、印鑑、公印など）はセンターから本学会会長以下常務理事会に引き渡されました。その後、緊急に事務業務を引き受けてくれる可能性のある企業約10社を比較検討し、最終的には下記のサイベック株式会社を選定し、過日業務契約を結びました。

サイベック株式会社 TEL: 03-5940-7290/FAX: 03-5940-7980

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-11-6 大塚三丁目ビル

2. 学会の活動について

事務センターが破綻して学会はどうなるのか？ JEM、和文誌など学会誌は今後どうなるのか？などいろいろなご心配のお問い合わせを頂きましたが、破綻したのは日本顕微鏡学会が事務業務を委託していた日本学会事務センターであり、日本顕微鏡学会が破綻したわけではありません。本会は今後も何の問題もなく存続し、学会誌はこれまでどおり発行し、学術講演会やシンポジウムなどは予定通り行います。新しい事務局も立ち上がりましたので、事務機能を早急に回復できる見込みです。

3. 新しいホームページ

センターの破綻に伴い、旧ホームページはすでに消滅しております。新ホームページを開設しました。URLは下記のとおりです。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsm/index.html>

今後はこちらをご覧ください。逐次ニュースを掲載していきます。

今後とも日本顕微鏡学会をよろしく願い申し上げます。

◇第61回学術講演会について

標記講演会が下記要領にて開催されます。多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。詳細については同封の募集要項、ならびに講演会ホームページ (<http://quasi.nims.go.jp/jsm05/>) をご参照ください。

会 期：平成 17 年 6 月 1 日 (水)～3 日 (金)
(チュートリアル等、一部関連行事は 5 月 31 日 (火) にも開催されます)

会 場：つくば国際会議場 (エポカルつくば)
(特別講演、シンポジウム、一般セッション、機器展示、ポスターセッション、写真コンクール、懇親会)

文部科学省 筑波研究交流センター
(チュートリアル、シンポジウム、一般セッション、各種委員会)

特別招待講演 (平成 17 年 6 月 1 日)：

白川英樹先生 (筑波大学名誉教授)

「ポリアセチレン薄膜の合成と電子顕微鏡観察」

実行委員長：松井良夫 (物質・材料研究機構)

プログラム委員長：

(医学・生物系) 高田邦昭 (群馬大院医学系研究科)

(装置・材料系) 木本浩司 (物質・材料研究機構)

チュートリアル企画委員長：

坂 公恭 (名古屋大院工学研究科)

問い合わせ先：

〒 305-0044 つくば市並木 1-1

物質・材料研究機構 物質研究所 先端結晶解析グループ内 日本顕微鏡学会学術講演回実行委員会

TEL: 029-860-4401, 4700 FAX: 029-851-4976

E-mail: MATSUI.Yoshio@nims.go.jp

TAMURA.Noriko@nims.go.jp

◇第15回電子顕微鏡大学について

日本顕微鏡学会は材料研究に従事する研究者や技術者、初心者を対象に電子顕微鏡の基礎技術についてのセミナー「電子顕微鏡大学」を企画しています。電子顕微鏡の予備知識が無くても受講できる、平易でしかも実際に役立つ講義内容が特徴です。

受講希望及び詳細については E-mail・FAX・葉書で下記までご連絡ください。プログラム等詳細をおってお知らせします。また、会場の都合で期日の変更があり得ますので、その際はお知らせいたします。

会 期：2005 年 4 月 18 日 (月)、19 日 (火)

会 場：東京工業大学 100 年記念館 (東京都目黒区)

連絡先：〒060-6826 札幌市北区北 13 条西 8 丁目
北海道大学エネルギー先端工学研究センター
電頭大学事務局

E-mail: dendai@ufml.caret.hokudai.ac.jp

◇日本顕微鏡学会関東支部第29回学術講演会について

標記講演会を、下記要領にて開催いたします。多数、ご参加頂きますようお願い申し上げます。

実行委員長：杉山昌章 (新日鐵 先端研)

ホームページ：

<http://www.nims.go.jp/hvems/jsm-kanto-conf2005/>

—材料・バイオ・ナノワールドの最先端を探る—

日 時：平成 17 年 3 月 5 日 (土)

会 場：東京医科大学病院 本館 6 階 (新宿)

(営団地下鉄 丸ノ内線 西新宿駅 (東京医大病院前) 下車、徒歩数分。または、新宿駅西口より徒歩約 10 分)。

参加費 (含予稿集代)：

3,500 円 (会員)

4,500 円 (非会員)

学生は無料 (予稿集は希望者に 1,500 円で提供)。

懇親会参加費：3,000 円 (学生 1,000 円)

講演内容：午前中は、材料・生物分野の融合による最先端の技術展開が目覚しい「生体適合材料の今を考える」特別講演に続き、応用技術も考慮した最近の「機能性微粒子の創製とナノテクノロジーの最先端」、そして人工臓器や様々な材料にみる「機能性多孔体の構築と最先端の評価技術」について、生物・非生物共通のセッションを行います。午後はこれらの最先端技術と顕微鏡技術の関わりの中で、「顕微鏡で真の姿を見るためのダメージ軽減の現状と展望」について、共通セッションとして引き続き講演されます。その後、材料系セッションでは、「ナノ構造&局所状態分析技術の最前線」と幅広く最先端顕微鏡技術の動向が講演され、生物系セッションでは、可視化技術が本格化してきた中で、「生細胞イメージング&三次元イメージング技術の最前線」が講演されます。さらに、例年好評を博す初心者のための基礎技術セッションは、「ポストゲノム時代にむけて電頭基礎技術を見直そう」と題してパラレルに行われます。第一線でご活躍頂く先生方にご講演を頂きますので、奮ってご参加下さい。詳細は上記の支部講演会ホームページをご覧ください。

一般からのポスターを募集します：

前回より開始されたポスター発表が好評であり、今年も継続します。優れたポスターには、『ベストポスター賞』を授与します。名前・所属・連絡先・E-mail と、A5 横書きの原稿 (カメラレディー) を作成の上、平成 17 年 1 月 12 日 (水) までに、下記送付先までお願いします。詳細は、上記ホームページをご覧ください。未完成や検討中の研究内容も歓迎します。是非ご参加下さい。

予稿原稿送付先、および問い合わせ先：

杉山昌章 (実行委員長)

〒293-8511 千葉県富津市新富 20-1

新日本製鐵 (株) 先端技術研究所

E-mail: msugiyam@re.nsc.co.jp

TEL: 0439-80-2238

◇平成17年度分科会・研究部会公募の案内

申請用紙の請求、手続きの詳細などは学会事務局へご連絡ください。募集の〆切は2005年1月14日（金）（必着）です。

◇永年会員について

正会員歴30年以上でかつ満65歳以上の会員は、5年分の会費を一括前納することにより永年会員となることができます（永年会員：終生正会員の資格を保有）。永年会員の申請については学会事務局

（担当里見：E-mail: satomi@r-sipec.jp）へお尋ねください。

Journal of Electron Microscopy (JEM) レポート

JEM 編集委員長
市野瀬英喜

アンケートのお願い

かねてよりお知らせしましたように、JEM では、刊行の迅速化と経費節約および一流紙としてのステータス確保の一石三鳥を狙って、投稿の電子化、PDF 形式でのオンライン配布など、刊行システムの電子化を進めて参りました。次の段階としていよいよ、検索可能な HTML 形式による配布を準備しています。電子版が実際に HTML 化された際には、JEM の環境にいくつかの変化が予想されます。その最も身近な一つが、印刷版が不要となる会員が多数に亘る可能性のあることです。このことをふまえ理事会では、電子版の HTML 化実現の際には、会員への全員無料配布は電子版のみとし、印刷版は希望者のみの有料配布とすることを、考えております。つきましては、印刷版希望者の実数を把握する必要があるがございますので、用・不要につきまして、アンケートにお答え下さいますようお願いいたします。アンケート窓口は、顕微鏡学会のホームページ http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsm/j_frame.html に2005年1月1日より一ヶ月間の予定で開設されますので、そちらからご回答くださるようお願いいたします。

さて、前号で「JEM の装丁が変わるかもしれません」と、ご報告しましたが、ご存じのように、顕微鏡学会の事務全般を遂行してくれていた学会事務センターの倒産で、JEM としてもとてもそれどころではない状態が続きましたので、準備を進めるに至らずまだ実現しておりません。幸い、会長はじめ執行部のご努力で、11月から事務取扱の契約を、cipec 社と結ぶことができたようですので、JEM 関連の作業も徐々に円滑になると思われます。

学会の財政状況を考えますと、毎年の科研費補助は誠に有り難く干天の慈雨であります。今年度も科研費申請の時期を迎え、ようやく作業が終わりました。援助をお願いする限りは、JEM としても学会への財政負担軽減の更なる自助努力を傾ける必要があるのは当然です。そのために電子化をさらに進め、上にも述べましたように、極めて近い将来に印刷版の配布は希望者のみに限ることを考えております。かなら前述のアンケートにご協力くださるようお願いいたします。

前号でもご報告いたしました。米アリゾナ州立大学の J.M.Cowly 教授がお亡くなりになった後、同大学と話し合いをすすめ、Cowly 教授の電子顕微鏡における偉大な業績に敬意を表して、国際的に電子顕微鏡分野を代表すべき論文誌として、JEM が追悼号を刊行することになり、準備が進んでいます。来年早々にはお届けできるものと考えています。

以上